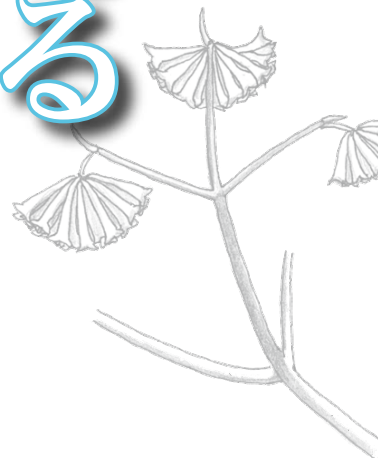


自然を糧に生きる

という

あたりまえのあり方を見つめ直す

人間は本来、野山の植物を採取し、魚や獣を獲り、それを利用することでしか生きられませんが、けれども、私たちはいつの間にか、生活に必要なものは何でもお店で買ってくるようになりました。それは、人間が自然の中で生きていく生物であることを考えたとき、不自然なことです。1960年代以降、日本人の多くは自然とのかかわりを失い、それ以後の世代は、「勘考する」（あるものを加工して工夫する）ことを知らずに育ちました。でも、山里にはまだまだ「勘考する」心を持っている人たちがたくさんいます。狩猟をしたり、山の木を売って糧にしている人がいます。子どもの頃の経験を体で覚えている人たちがいます。山里文化研究所は、人と自然のかかわりをテーマに聞き書き活動を行ってきました。そこから生まれた本の中には、すべてを「自然の成長量の中で」行い元本に手をつけずに暮らしが語られています。



山里の聞き書き書籍

山里の聞き書き活動とは

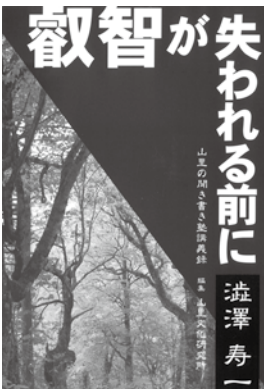
●聞き書きとは、話し手の話したことを聞き手が書き取り文章にするものです。
●「山里の聞き書き」活動では、農山漁村地域に10〜15名のヨソ者や若者が訪ねてお話を聞き、地域の本として刊行しています。

市町村行政・地域づくり団体の方へ

山里の聞き書きは、都市住民や若者と交流をしながら、地域の魅力を再発見する活動です。地域づくりの入口として、この活動で地域の本を創りませんか。お気軽にお問合わせください。

自然の中の暮らしに興味のある方へ

山里の聞き書き活動を通して、山里の人と交流し、たくさんのお話を教えてもらいませんか？ 最初の聞き書き塾から作品完成まで、山里文化研究所が手取り足取り指導します。お気軽にご参加ください。



全国の高校生が「森の名人」に聞き書きをする「森の聞き書き甲子園」。2002年から毎年百人が参加し、現在は海の名人や海外にまで広がっている。これを立ち上げ、ずっと運営にあたってきたのが遊澤寿一氏。
高校生たちはなぜ辛い書き起こしを乗り越えて全員が原稿を提出するのか。持続可能な暮らしとはどういうものなのか。今、なぜその聞き書きをするのが大切なのか。遊澤氏の講演をまとめた。2010年3月刊行 800円



◆愛知県南知多町篠島

2009年12月刊行
1500円



◆岐阜県恵那市中野方町

2010年3月刊行
1200円



◆岐阜県恵那市上矢作町・串原

2009年3月刊行
1200円



◆岐阜県恵那市笠周3町

2008年5月刊行
1200円



◆長野県根羽村

発行/長野県根羽村
2014年6月刊行



◆愛知県設楽町駒ヶ原・沖ノ平

取扱/沖駒区開拓聞き書き実行委員会 ☎ 0596-65-0638
・山里文化研
2013年3月刊行 1200円



◆長野県木祖村

2011年5月刊行
1200円



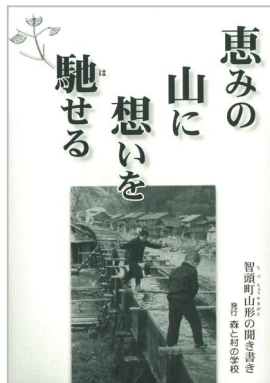
◆全国

2010年3月刊行



◆鳥取県智頭町山郷

発行/山郷地区振興協議会 ☎ 0858-75-0221・鳥取大学
家中研究室 ☎ 0857-31-5073
2013年11月刊行



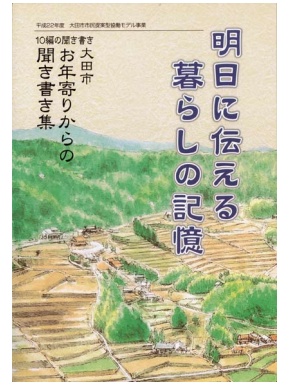
◆鳥取県智頭町山形

取扱/鳥取大学家中研究室 ☎ 0857-31-5073
2012年5月刊行 1200円
(完売)



◆島根県奥出雲町阿井

発行/NPO法人もりふれ倶楽部 ☎ 0852-66-3586
2012年1月刊行 1000円



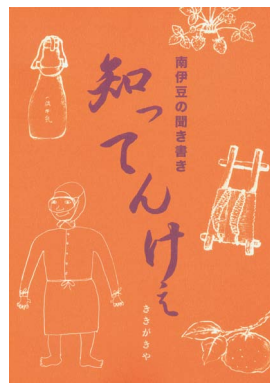
◆島根県大田市

発行/NPO法人緑と水の連絡会議 ☎ 0854-82-2727
2011年3月刊行 1200円



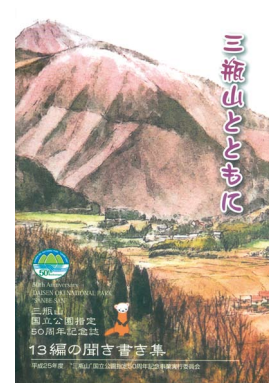
◆徳島県上勝町

発行/かみかつ里山倶楽部 ☎ 0885-44-6680
2014年3月刊行



◆静岡県南伊豆町

発行/ききがきや ☎ 090-1989-3812
2014年1月刊行 1500円



◆島根県大田市 三瓶山

取扱/緑と水の連絡会議 ☎ 0854-82-2727
2014年1月刊行



◆島根県大田市 石見銀山

発行/緑と水の連絡会議 ☎ 0854-82-2727 1575円
2012年10月刊行